

北海道 札幌中島公園

八田三郎



此係東洋田邊君所  
收之書也

村の自らもたはたし果てんが道つたかを自惚れ  
か上り西村とは極端に衝突せり

まゝにいふにふりてに少のあはる

我々のなるに井心とて改命

の意はあつたよとていふもいふも

其まゝに村老とて改命し

得小老猶も方に其意あつたを

取り一層輕悔の意を培ひ田

今入の所をどつて傲慢の意

ことをしつたは行くも

恩給規程と運用せしめるの貼札

を以てしつた申すは我々の

後あつたは去つて我に掛職

二あつて本扱すを以て今

束縛し或は増修す等輕力

防範に力のあつた理由に

是社すもいふ大正行の認定し

合と尋ふる一柳工の一千

餘田抱すもの有之社とて

千田の抱をむ是れは

夢想とつた一石も一石

とておぼしめし一柳工と一

とておぼしめし其意も及

たつたは其意も及

か



餘田抱すもの有之社と云ふこと

千円の持たせむ。是れは

夢想とつちかへるものあり

とておれ、信し一柳工を一祀

とせむ。其交もに及れしゴ

ク。とて、職工に於て

我が降服したる格も有る

ゆゑに社の中、混血に流

石の傳も、重んじられたる

く、信し、今とせむこと、

を切り、我と拙りたるドク

か、頭を下し、不可、我の

おれ、之れ、照書なき事。

の持りたる、何れに、其の

の専門にあり、おれ、其の

海田社、一馬千金、其に、

おれ、おれ、おれ、おれ、

おれ、おれ、おれ、おれ、

おれ、おれ、おれ、おれ、

おれ、おれ、おれ、おれ、





大元よりの人を高く仰ぐ  
一は前にも述べた如く、  
此の文筆可仕、得遇の現給の

~~其の~~ 信教

此も基礎破壊のより保託  
致す、此の人、子向が誠意の

所向だが、此の心も、  
此の指し、主眼的の心

子取の記者がや、此の記者  
且得本此を皆、此の人

前加記、大西は東前の人

此の、此の、此の、  
也、此の、此の、

西下、此の、此の、  
此の、

此の、

此の、

大元

此の、